

《眼科臨床エキスパート》 眼感染症診療マニュアル

吉村長久, 後藤 浩, 谷原秀信, 天野史郎 シリーズ編集
薄井紀夫, 後藤 浩 編

この度、医学書院の《眼科臨床エキスパート》シリーズの一冊として、眼感染症診療のための究極の実践書である『眼感染症診療マニュアル』が発刊された。

本書は、長年にわたり眼感染症の基礎および臨床に熱心に従事してこられた総合新川橋病院眼科部長の薄井紀夫先生、および東京医科大学眼科学分野教授の後藤浩先生が編集された眼感染症に関する新しいバイブルである。薄井先生、後藤先生は眼感染症学のリーダーとして世界的に活躍しておられるだけではなく、感染症全般に独自の深い見識をお持ちの専門家である。このお二人の下に、わが国を代表する41人の眼感染症専門家が集い、最新の眼感染症診療マニュアルを完成させた。これは第一線の眼科医だけではなく、眼科医療従事者、さらには研修医や医学生にとっても必読の貴重な書物である。

本書は第1章が薄井先生の総説「眼感染症の診療概論」で始まるが、これは読み物として圧巻の内容である。極小生命体としての微生物の詳細な解説に始まり、眼感染症に対する診療原則をご自身の哲学を基に見事にまとめている。そして己の身の程をわきまえ、微生物との共生を謳い上げており、微生物への深い愛情すら感じられる。この後、第2章では「眼瞼疾患」、第3章では「涙器・眼窩疾患」、第4章では「結膜疾患」、第5章では「角膜疾患」、第6章では「ぶどう膜・網脈絡膜疾患」、第7章では「眼内炎」について詳記されている。そして最後の第8章では眼感染症で特に重要な「術後感染症」について記載されている。

本書ではいずれの項目でも読者が容易に情報を得られやすいように、基本レイアウトとして左ページには解説が、そして右ページにはカラー図やシェーマ、わかりやすい表が配置されている。左ページの解説は各感染症の疾患概念、臨床所見、病原微生物の同定、病原微生物に対する治療、生体反応への対応、続発症へ

の対応、そして予後が整然と記載されている。例えば病原微生物の同定や検査法は各診療所で行えるもの、病院中央検査部や民間の検査センターに依頼できるもの、あるいは研究目的が主で日常臨床では不適のものなどが明記され、補助検査の意義についてわかりやすく詳記されている。

また、治療法についても最新の情報が項目ごとに簡潔に記載されており、本書はまさに眼感染症に対する実践的なマニュアル書の面目躍如である。また、右ページのカラー図は病状をよく表している典型例が満載されており、診療の合間に右ページだけを見ていても非常にためになる。この他、簡潔で理解しやすい表、フローチャート、シェーマなども複雑な眼感染症の理解を深め、頭を整理する上で大きな助けとなる。

お二人の編集者が序言で書かれているように、人類は現在も、そして未来も感染症の恐怖に脅かされ続けることは確かである。AIDS, SARS, 鳥インフルエンザ, デング熱, エボラ出血熱, そして次は何が人類に押し寄せてくるのであろうか。しかし、日本では2014年度から高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチンが定期接種となるなど、病原微生物との闘いは着実に前進している。われわれ眼科医も「古くて新しい病気」である眼感染症の診療で決してひるむことなく、今回の名著である『眼感染症診療マニュアル』を最大限に活用していきたい。

北大大学院名誉教授・眼科学／医療法人社団
愛心館愛心メモリアル病院眼科眼科部長
大野重昭

B5 頁440 2014年

定価：本体17,000円＋税

[ISBN978-4-260-02019-0] 医学書院刊